

# 日高教速報

2008年8月7日 第262号

発行：日本高等学校教職員組合  
東京都千代田区二番町12-1  
全国教育文化会館

E-mail：  
nikkokyo@nikkokyo.zenkyo.org

## 部活動問題で全国校長協会と懇談 事務局長「学校現場での議論が重要」

8月7日、日高教は5月に発行した部活動に関する「職場討議資料」をもとに、全国高等学校長協会と懇談しました。

日高教は、これまでにこの問題で文部科学省・全国高等学校PTA連合会と交渉・懇談してきました。今後、高体連・高野連との懇談を予定しています。



写真 校長協会の小栗事務局長(左)と藤田書記長、小池書記次長  
(撮影：春名中央執行委員)

冒頭、日高教から「職場討議資料一部活動の健全な発展と教職員の負担軽減めざして」の趣旨を説明しました。

小栗事務局長は、中央教育審議会委員も歴任し、中教審で部活動の手当について発言した経験を述べ、日高教が職場討議資料をもとに各団体と懇談をすすめていることについて「結構なことだと思う」とコメントしました。また、文部科学省が手当の増額を視野に入れながら、部活動をこのまま学校が担うか、社会体育へ移行するかについて検討していることなどにふれました。そして、学校現場がそうであるように、校長協会の中でもこの問題についての「意見の統一が難しい」状況にあること、知事部局の管轄である私学との関係も考慮する必要があることなどをコメントしました。さらに、日高教の部活動問題に対する「3つの視点、5つのとりくみ」について「同感である」と感想をのべ、まずは、学校の教職員の間で話し合いをすることが重要であると強調しました。

今回のパンフレットをつくった目的は、教職員だけではなく関係者との幅広く話し合いをすることです。日高教は、そのことを伝え、全国校長協会でも積極的に議論していただきたい旨を申し入れました。